

岳連
ニュース

宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

静岡県山岳連盟

〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成26年6月16日発行

日山協競技部研修会

競技委員長・監督合同会議

日山協の平成25年度競技部ブロック別研修会が3月15・16日の2日間岐阜市の長良川スポーツプラザで開催し、前川副理事長、諸戸国対委員長の2名が参加した。

研修会は、①C級審判員認定研修会、②競技運営員認定研修会、③競技委員長・監督合同会議の3つのセッションで行われ、③セッションに参加した。

参加者は合同会議が8名、C級審判員認定研修会が11名の計19名で、講師は日山協の滝内嘉一氏、佐原晴人氏が務めた。

■競技委員長・監督合同会議

(1) 東京国体の報告
①第68回国体は、平成25年10月3日～6日にかけて東京都東久留米市で開催された。

②平成20年の大分大会からリードとボルダ競技の2種目開催となり6回目、日山協公認の資格を持った運営員・ルートセッター・

クライミング審判員等により、円滑な競技運営、安全対策や雨天対策等を協力しスムーズな運営が行われた。

③平成21年度から中学3年生の国体参加が認められ、今年は男女7名が出場し、リード競技決勝に男子1名、女子1名が進出しチーム成績に大きく貢献した。

④リード競技は雨天のため、競技時間を延長したり開始時間を遅らせたりしたため、照明を点灯し2時間遅れで終了した。

⑤リード競技のグレードは、少年男子のレベルが上がり、成年男子とほぼ同じになった。少年女子のグレードは、成年女子の難易度を上回った。

⑥競技中にテクニカルインシデントが2件発生した。1件は、運営側のタイム操作ミスであり、もう1件は、小さなフットホルルドの破損によるものであった。

(2) 東京国体からの変更点
①同種別の選手2名は、競技中ユニホームを統一することとなった。

②監督は日体協公認指導員資格を取得している者となった。

③決勝進出全チームが決勝のすべての課題をトライして順位を決定する方式になった。

④監督はブロック大会と本大会で異なった種別に参加できない。

(3) 山岳競技規則集の内容確認

(4) 日山協関連報告

①都道府県予選会の報告、大会終了後10日以内に提出されていない事例が若干みられた。

②今回もドーピング検査が行われ、リード競技決勝の成年男子4名、成年女子2名の選手が検査対象となった。全ての選手が検査対象候補であることを選択、監督は自覚してほしい。

③国体参加選手は、事前に選手登録する必要がある。(前川)

4月常任理事会

4月14日(月) 静岡労働会館で常任理事会が開催された。

出席者、滝田、塩沢、木ノ内、出利葉、前川、豊田、工藤松永、増田、大石、長野坂田、諸戸、内海、田中、清水、高橋、内山、計18名
会長挨拶

今年度は役員改選の年、役員、専門委員長には、留任をお願いしたい。相談役が2名と少ないので、3名の方に就任要請をし承諾を得た。

元連対委員長青島秀也氏、清水ハイキングクラブ会長の山本主計氏、南アルプス高山植保保護ボランティアアネットワーク鶴飼一博氏で承認をお願いしたい。

クライミングの指導者を外部に求めるためと公認指導員で所属のない人がいるので当面の策として個人会員を認めていく方向で進めると挨拶があった。

(1) 報告事項
①国体委員会
・競技部ブロック別研修

会が3月15・16日岐阜市長良川スポーツプラザで開催され、前川副理事長、諸戸国体委員長の2名が参加した。

・競技委員長総会が4月6日、岸記念体育館で開催され諸戸国体委員長が参加した。選手登録リストの閲覧とセキユリテイの問題が議論となった。

(2) 協議事項
①3名の相談役就任についての議題提案があり承認する。

②平成26年度のスポーツフェスティバル
実施要項案が提示され期日10月4・5日で会場は安倍奥山域。

③平成27年度のスポーツフェスティバル
大井川ブロックに開催を要請し承認される。

④平成27年度長崎国体予選会
前回配布した要項に選手登録の部分を加え修正した要項が提示された。当日役員参加できる人の確認をした。

⑤東海ブロック大会
7月19・20日。リードを城端町、ボルダを高山市で実施。

⑥26年度通常総会

・期日会場 5月10日、もくせい会館
・総会次第に基づき説明担当者を決める。
・25年度事業報告の内容を確認し承認。
・25年度会計報告の説明を受け承認。
・26年度事業計画の内容を確認し承認。
主な内容 一般向け登山教室、少年少女登山教室、セルフレスキュー講習会の開催。広報の充実。岳連カレンダーの販売。
・26年度予算の内容を確認し承認。

⑦26・27年度役員改選
・現役員は25年度末で任期満了となるため、総会で新役員候補を選出する。選出方法は当日、その場で選考委員会を設置して候補者を選考し、総会にかけることで承認される。
・4名の選考委員を各ブロックから選出し承認される。
・地区選出と高体連の常任理事は、推薦された方を総会にかける。相談役3名は会長が総会の席上で発表。(木ノ内)

平成26年度通常総会

事業計画・予算を承認

滝田会長選出

平成26年度通常総会が5月10日静岡市のもくせい会館で開催された。

滝田会長から日山協の公益法人化を受け、県岳連も一般向け登山教室、少年少女登山教室等の公益事業を開催した。今年度も続けて行きたい。加盟団体の会員の高齢化により加盟数の減少が続いている現状から事業運営に苦慮している。会員の皆様の積極的な事業参加をお願いしたい。と挨拶があった。

議長に藤枝山岳会の塩沢氏を選任し、議事に入る。

【協議事項】

(1) 事業報告
全体の事業報告と各専門委員会の報告があった。主な内容は、東海大会を静岡で開催。少年少女登山教室、一般向け登山教室の開催。東京国体で少年男子ボルダで6位入賞セルフレスキュー講習会、海外トレッキングの楽しみ方講座の開催など。

充実(ホームページなど)
③個人会員制度の検討。団体数の減少に伴い会勢拡大の方策として個人会員の取り込み。が提示され、全体の事業計画と各専門委員会計画の議案説明を受けた。その他、カレンダーの販売、広報誌の発行、セルフレスキュー講習会、海外トレッキングの楽しみ方講座など。意見として個人会員制度では個人加入のメリットが求められる。各専門委

員会が専門性を生かした講習会などを数多く実施し、無料参加の特典を与えるなど。

計画案は、原案どおり承認される。

(4) 予算案
議案説明の後承認する。

ステイバルの実施要項案の説明が静岡ブロックからあり承認される。

■期日 平成26年10月4日

■会場 安倍奥山域(山伏岳、笹山周辺及び大日古道)

■Aコース 1泊2日(健脚者向け)

■Bコース 1泊2日(一般向け)

■Cコース 日帰り(一般向け)

大日峠の古道と井川湖の渡船

(木ノ内)



議長に藤枝山岳会の塩沢氏を選任し、議事に入る。

【協議事項】



(2) 会計報告
議案説明の後承認する。

(3) 事業計画
今年度の方針として、①公益事業の推進(一般向け登山教室、少年少女登山教室など) ②広報の

平成26・27年度役員		
会長	滝田 博之	清水山岳会
副会長	塩沢 寿雄	藤枝山岳会
副会長	清水 雄三	高体連
理事長	木ノ内高嘉	富士宮山岳会
副理事長	前川 朝夫	JR東海
副理事長	出利葉義次	静岡EXPクラブ
監事	豊田 稔	湖西山の会
監事	高橋 弘	踏岳会
常任理事	堀内 修	御殿場山岳会
常任理事	工藤 誠志	富士宮山岳会
常任理事	松永 義夫	静岡EXPクラブ
常任理事	大石 一博	静岡ワングル
常任理事	増田 浩二	清水山岳会
常任理事	小田 直美	静岡山岳会
常任理事	長野 和義	島田しらびそ
常任理事	坂田 昇	島田ハイキング
常任理事	内海 廣治	中遠登山クラブ
常任理事	田中 保広	JR浜松工場
常任理事	伊藤 正道	高体連
常任理事	小川 俊昭	高体連
常任理事	内山 一彦	高体連
常任理事	諸戸 明	富士宮山岳会
相談役	田辺 恵造	富士山登会
相談役	鈴木 昭夫	静岡ピスタリ
相談役	山本主計	清水ハイク
相談役	青島秀也	ベルグハイル
相談役	鶴飼一博	日本山岳会



5月25日(日)10時30分から岸記念体育会館会議室において、日山協の平成26年度定時総会が開催された。

最初に神崎会長から、昨年4月から日山協は公益社団法人となり、1年が経過した。わが国の登山界を代表する登山団体としての使命と役割を果たすため、より広く「安全登山の啓発」、「山岳環境保全」、「山岳文化の発展」に取り組んでいく。

25年度は公益社団法人スタート年として、安全登山及び山岳スポーツ指導・普及に努めながら、

平成26年度日山協定時総会

全国的な視野に立った各種登山・山岳スポーツ振興事業を実施した。また、組織の充実強化として、全国高等学校体育連登山専門部が、26年度から本会に加盟することになった。と挨拶があった。

議事は、第1号議案平成25年度事業報告(案)について、平成25年度監査報告について、第2号議案平成25年度収支決算報告(案)について、でいずれも全員一致で可決

南ア春山相談所開設 沼平指導センター

南アルプスの春山相談所が、4月26日から5月6日までの11日間、沼平の指導センターで開設された。

県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣した。また、警察の山岳救助隊員もその間常駐し、登山者の相談、指導及び天候や雪の状態などの情報提供を行い、安全登山の一翼を担った。

この期間の沼平からの入山者は、45パーティ(71人)で茶臼岳・光岳方面が20パーティ、聖岳方面が10パーティ、赤石岳方面が9パーティ、その他が6パーティで昨年より少なかった。

今年の春山は、4月30日が雨天で区切られ、連

て閉会した。会場を提供していただいたスクエアさんとB・S・P・O・Tさんには大変感謝申し上げます。

次の上位2名が、東海ブロック大会(成年男子は本国体)に駒を進めることになりました。東海ブロックの突破及び本大会での活躍を期待しています。

【成年男子】
1位 大橋征弘 2位 田邊匡律

【成年女子】
1位 望月香菜子 2位 渡辺亜梨沙

【少年男子】
1位 伊藤優輝 2位 吉田隣生

第69回長崎国体県予選会

浜松SCC、B・S・P・O・Tで開催



本年度の長崎国体の予選会が35名の参加を得て、5月3日に行われた。昨年と異なり2会場で実施し、リード競技を浜松スクエアクライミングセンター、ボルダリング競技をB・S・P・O・Tに分けて実施した。会場移動があり、移動手段、競技時間などで心配していたが、大きなトラブルなく運営ができた。

競技は、リード競技、ボルダリング競技とも少年・成年共通のコースで行われ、まず女子のリード競技は、傾斜の強い部分をトラバースしカンテ

際を登るルートで、少年女子の3名と成年女子の2名が完登(グレード12a)。男子は、正面のメイン壁を真っ向から登るルートでダイナミックな動きのある体幹を使う厳しいルート(グレード13a)で、成年の田邊さんと伊藤さんが終了点を取るところでフオール、少年の吉田君がそれに続いた。その後、B・S・P・O・Tに移動して行われたボルダリング競技は4分間オンサイトの4課題のベルトコンベアー方式で、女子は少年の北脇さんと中村さんが3完登、成年は望月さんと渡辺さんが4完登と強さをみせた。

また、男子は少年の伊藤君と鈴木君、成年の大橋さんと田邊さんが3完登となり、最後声援が飛ぶ中、競技は盛り上がりつつ終了した。

最後に、セッターをお願いし当日も競技の終わるまで見届けていただいた、愛知県の大山さんから、コメントをいただいた。

高校総体登山競技

藤枝東(男)富士宮西(女)優勝

高校総体登山競技は東部・中部・西部の持ち回りで行われている。今年度は東部の愛鷹山系を会場として5月23日、24日に実施された。同会場においては前々回の20年度、前回の23年度といずれも荒天による大幅なコース縮小が行われ、2日目のゴールであるブナ平ま

で登ることができなかった。しかし、今大会は天候に恵まれて、初めて完全なコースで実施された。2日目コースのつるべ落としの滝付近では、登山道が一部崩れた箇所もあったが、あらかじめ危険箇所の補修を行い、当日も運営委員・安全管理委員の協力により、大きな事

種別	氏名	所属	順位
少年女子	北脇順子	浜松日体高	1
	中村祐香梨	浜松日体高	1
	村野加奈	富士宮西高	3
	古川弓海	富士宮西高	4
	小山紗莉	富士宮西高	5
	柴田美里	浜松日体高	6
成年女子	望月香菜子	宇都宮大学	1
	渡辺亜梨沙	常葉学園大学	2
少年男子	伊藤優輝	浜松日体高	1
	吉田隣生	浜松日体高	2
	鈴木正信	浜松日体高	3
	内田憶利	富士宮西高	4
	内田柁平	富士高	5
成年男子	鈴木貴大	浜松日体高	6
	大橋征弘	自営	1
	田邊匡律	立教大学	1
	伊藤裕貴	浜松スクエア	3
	室伏洋希	小糸製作所	4
	関 翔太	専修大学	5

故もなく終了することができた。男子21校、女子7校が参加し、全国大会、東海大会への出場権を目指し熱い戦いを繰り広げた。男子は浜松日体、富士宮西との激戦を制した藤枝東高校が優勝、女子は富士宮西高校が17連覇を果たし、それぞれ8月に箱根山系で開かれる全国大会への切符を手にした。また、男子2位の浜松日体高校、同3位の富士宮西高校、女子2位の藤枝東高校、同3位の清水東高校が愛知県で行われる東海大会への出場権を得た。

男女ともに昨年に引き続き、非常にレベルの高

い戦いとなり、上位大会への出場権を得た学校はいずれも、素晴らしい完成度をみせていた。中でも、全国屈指の強豪校として名をはせている富士宮西高校女子の活躍には期待したい。

入賞した学校は以下の通りである。(男子は6位まで、女子は4位までが入賞) 【男子団体】
1位 藤枝東 2位 浜松日体 3位 富士宮西 4位 富士 5位 日大三島 6位 富士東 【女子団体】 1位 富士宮西 2位 藤枝東 3位 清水東 4位 静岡

の判定を甘くして差のつけられる部分は差をつけるべきである。ボルダリについても同様にノーマルをゆるめにする。

(3) 高体連の選手登録 26年度の全国総体、県、全国クライミング大会は予選から選手登録が必要。

(4) 日山協選手登録 岳連が登録を行った者は確認できるが、個人で登録した者は確認できない問題点がある。

26年度事業計画

3 国体競技規則の改訂 はりぼてにあるボルト・オン・ホルドの設置用には開けた穴も使用してはならない。抗議関係で順位に影響が出ない場合の却下。リードのアテンプト中の選手間および監督の指示、アドバイスが可能とする。アテンプト中、ピラスなど危険と判断されるアクセサリー等の着用禁止。リード壁は側面が使用可能になるように設計されること。

4 その他 競技運営員の認定、長崎国体の準備状況、トラン競技の推進などが協議された。

(諸戸)

日山協競技委員総会

平成26年度競技委員総会が岸記念体育館で4月6日に開催され、41都道府県が参加した。

1 25年競技部事業報告

(1) 競技会運営事業報告

リード・ジャパンカップ、JOCジュニアオリンピックカップ、全国高等学校選抜クライミング選手権大会、その他

(2) 技術委員報告

c級ルートセッター合格者(13名、静岡県は倉島将吾、伊藤裕貴)

c級審判合格者119名

判定基準の統一(審判) リードの国内のノーマル判定はヨーロッパに対して厳しすぎる。マイナスの廃止でプラスが多くなってしまうので、ノーマル

の判定を甘くして差のつけられる部分は差をつけるべきである。ボルダリについても同様にノーマルをゆるめにする。

南ア春山相談所開設

沼平指導センター



南アルプスの春山相談所が、4月26日から5月6日までの11日間、沼平の指導センターで開設された。

県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣した。また、警察の山岳救助隊員もその間常駐し、登山者の相談、指導及び天候や雪の状態などの情報提供を行い、安全登山の一翼を担った。

この期間の沼平からの入山者は、45パーティ(71人)で茶臼岳・光岳方面が20パーティ、聖岳方面が10パーティ、赤石岳方面が9パーティ、その他が6パーティで昨年より少なかった。

今年の春山は、4月30日が雨天で区切られ、連

て閉会した。会場を提供していただいたスクエアさんとB・S・P・O・Tさんには大変感謝申し上げます。

次の上位2名が、東海ブロック大会(成年男子は本国体)に駒を進めることになりました。東海ブロックの突破及び本大会での活躍を期待しています。

【成年男子】
1位 大橋征弘 2位 田邊匡律

【成年女子】
1位 望月香菜子 2位 渡辺亜梨沙

【少年男子】
1位 伊藤優輝 2位 吉田隣生